

[成果情報名] 諫早湾干拓地の初期営農における早生タマネギの基肥施用量

[要約] 諫早湾干拓地における早生タマネギの窒素施肥量は、牛ふん堆肥200kg/aの施用条件で1.8kg/aまで減らしても営農計画の目標収量を確保することができる。

[キーワード] 諫早湾干拓地、早生タマネギ、窒素施用量

[担当] 総合農林試験場・企画経営部・干拓科

[連絡先] 電話0957-35-1272、電子メールiino-shinya772@pref.nagasaki.jp

[区分] 総合・営農(干拓・野菜)

[分類] 指導

[背景・ねらい]

諫早湾干拓においては調整池等の周辺環境に配慮した環境保全型農業を前提としており、初期干拓土壌での早生タマネギ栽培における環境負荷の少ないの窒素施肥量について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 早生タマネギは平成12年から15年の栽培で営農計画の目標収量(600kg/a)以上が確保でき栽培適性が高い(表1)。
2. タマネギの総収量は、窒素施肥量を18kg/10aまで減らしても目標収量を確保できる。また外品率は窒素13kg/10aで高くなった(表1)。
3. 市場性が高いL・M級は窒素1.8kg/aで80%以上と高い(図1)。

[成果の活用面、留意点]

1. 初期干拓営農指針の基礎資料とする。
2. 石灰、苦土肥料は無施用、牛糞堆肥200kg/a施用条件下での栽培である。
3. 干拓地の初期営農においては、緑肥による有機物の圃場還元や営農排水対策に留意する。

[具体的データ]

表1 収量と外品率

N施肥量 kg/10a	総収量 (kg/10a)				外品 (個数%)			
	H12	H13	H14	H15	H12	H13	H14	H15
13	—	—	5,180	—	—	—	47	—
18	6,610	8,530	6,470	8,060	0	8	0	3
23	6,790	8,870	6,250	8,670	0	0	0	3
28	7,010	8,930	6,690	8,720	0	3	0	0
32	7,370	8,830	—	—	0	0	—	—
37	—	9,210	—	—	—	0	—	—

※外品：抽苔・分球・腐れの個数割合

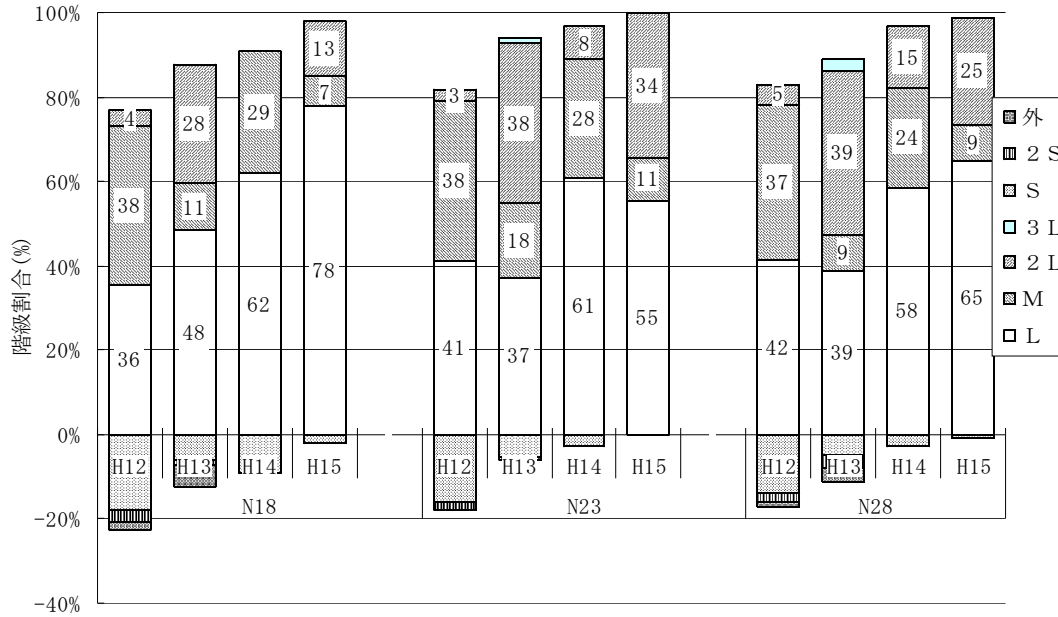


図1 階級比率

○耕種概要(参考)

○耕種概要

年度	品種	定植日	収穫日	栽植数(株/10a)	畦間(cm)	株間(cm)	条数
12年	七宝早生7号	11月29日	5月6日	27,890	151	12	5
13年	七宝早生7号	11月27日	4月25日	28,570	140	10	4
14年	七宝早生7号	12月23日	5月9日	27,210	140	10.5	4
15年	七宝早生7号	11月26日	4月26日	27,210	140	10.5	4

※1：作付体系は12年ソルゴー、13年クムソクローパー、セバニ、14年ソルゴー、15年ソルゴーとの輪作を組んだ(播種年)。

※2：牛糞堆肥成分は全窒素2.4%、全炭素31.2%、C/N13

※3：マルチ栽培

[その他]

予算区分：県単研究課題名：諫早湾干拓営農対策試験・営農対策試験

研究期間：2000～2004

研究担当者：飯野慎也、黒川陽治